

使徒聖ヤコボの公書

第一章 神及び我主イエズス、キリストの僕ヤコボ、離散せる十族に挨拶す。

第一項 患難及び誘惑に於る忍耐を勧めむ

一 我兄弟等よ、汝等種々の試に陥りたる時は、之を最も喜ぶべき事と思へ。三 其は汝等の信仰の試は、忍耐を生ずるを知ればなり。四 然れど汝等が完全無缺にして、何事も乏しき所なからん為に、忍耐は完全なる業を為さざるべからず。五 汝等の中に知識を要する人あらば、誰をも咎め給はずして吝なく賜ふ神に願ひ奉るべし、然らば與へられん。六 但疑ふ事なく信仰を以て願はざるべからず、蓋疑ふ者は風に動かされて、漂へる海の波に似たれば、七 斯る人は主より何物をも受けんと期する事勿れ、八 是一心ある人にして、其凡ての道に於て定まり無ければなり。九 兄弟の卑き者は其高められしを大いに喜ぶべく、一〇 富める者は、己が卑きによりて喜ぶべし。是將に草の花の如くに過ぎんとすればなり。二 夫日出でて焦くれば、草は枯れて其花は落ち、其面の美しさは失せたり。富める者の其道に於て凋むべき事も亦斯の如し。二 試を忍ぶ人は福なり、其は鍛錬を経て後、神の己を愛奉る人々に約し給ひし生命の冠を得べければなり。三 誰も誘はるるに當りて、神より誘はると謂ふべから

ず。蓋神は惡に誘はれ給ふ事能はざれば、誰をも誘ひ給ふ事なし。一四 各の誘はるるは、己の慾に惹かれ惑はされてなり、一五 斯て慾の孕むや罪を産み、罪の全うせらるるや死を生ず。一六 然れば我至愛なる兄弟等よ、過つ事勿れ、一七 総て善き賜と完全なる恵とは上よりして、變更なく回転の影なき光の父より降る。一八 蓋被造物の初穂の如きものたらしめん為に、御心よりして眞理の言を以て我等を生み給ひしなり。

第二項 活動する信仰の必要

一九 我至愛なる兄弟等よ、汝等は知れり、人総て聞くに疾く、語るに遅かるべし。二〇 其は人の怒は神の義を為さざればなり。二 然れば汝等一切の穢らはしき事と、夥しき惡事とを脱棄て、汝等に植ゑられて汝等の靈魂を救ふべき御言を穩に承容れよ。三 斯て汝等自ら欺きて聴聞者たるに止らず、言の實行者と成れ。三 蓋人もし言の聴聞者にして實行者に非ずば、鏡に寫して生來の顔を見る人に似たるべし。四 即ち己が姿を見て退くや、直に其如何に在りしかを忘る。五 然れども自由の完全なる律法を鑑みて之に止る者は、忘れ勝ちなる聴聞者と成らずして業の實行者と成る。斯る人は、其為す所に由りて福なるべし。二六 人若自ら宗教家なりと思ひつつ、其舌を制せずして己が心を欺かば、其宗教は無益なり。二七 父にて在す神の御前に潔くして穢れなき宗教は、孤兒寡婦を其困難に當りて訪問し、

自ら守りて世間に穢されざる事はなり。

第二章 我兄弟等よ、汝等光榮なる我主イエズス、キリストに於ける信仰を保ちて、人に依怙ある事勿れ。蓋汝等の集に美服して金の指環を嵌めたる人入來り、又粗服したる貧しき人入來らんに、三 汝等美服したる人を顧みて、宜しく此處に坐せよと言ひ、貧しき人には、其處に立て或は我が足台の下に坐せよと言ひば、四 是心の中に隔して料簡正しからざる審判者と成るに非ずや。五 我至愛なる兄弟等よ、聞け、神は此世に於る貧者を選びて信仰に富める者と成らしめ、神が己を愛し奉る人々に約し給ひし國の世嗣たらしめ給ひしに非ずや。六 然るに汝等は貧者を卑しめたり。富者は勢力を以て汝等を壓し、且自ら法廷に牽くに非ずや、七 汝等の上に稱へられたる善き名を穢すに非ずや。八 但し汝等もし聖書に従ひて、汝己が近き者を己の如く愛せよとの王的律法を守らば、其為す所や宜し。九 然れど若人に對して依怙あらば、是罪を犯して、犯人として律法に咎めらるるなり。一〇 其は誰にもあれ、律法を悉く守るも、一點の犯す所あらば、一切に對して有罪となればなり。一 蓋、汝姦淫する勿れ」と曰ひし者は又、「殺す勿れ」と曰ひしが故に、假令姦淫せざるも殺す事あらば、是律法の違反者たるなり。二 然れば汝等語るにも行ふにも、恰も自由の律法を以て審判せらるべき者の如くにせよ。三 蓋審判は慈悲を為さざる人に慈悲なき者にし、慈悲は審判に勝つものなり。四 我兄弟等よ、假令人自ら

信仰ありと謂ふとも、行なくば何の益かあらん、信仰壹之を救ふを得んや。一五 若兄弟姉妹の赤裸にして日々の食物に乏しからんに、一六 汝等の中彼等に對ひて、心安く往きて身を暖め、飽くまで食せよ、と言ふ人ありとも、身に要する物を與へずば何の益かあらん。一七 信仰も亦斯くの如し、行なくば死したるものなり。一八 然るに人或は言はん、汝は信仰あり我は行あり、行なき汝の信仰を我に示せ、然らば我も亦行によりて我が信仰を汝に示さん、一九 汝は神の唯一にて在す事を信す、其為す所や宜し、惡魔も信じて戰慄くなり。二〇 空なる人よ、行なき信仰の死したるものなるを知らん事を欲するか、二 我父アブラハムは、祭壇の上に其子イザアクを獻げて、行によりて義とせられしに非ずや。三 信仰が彼の行と共に働きし事と、行によりて信仰の全うせられし事とは汝の見る所なり。三 而して聖書に、「アブラハム神を信じたり、斯て此事義として彼に歸せられたり」と在ること成就し、彼は神の愛人とせられたり。二四 人の義とせらるるは、唯信仰のみに由らずして行に由るを見ずや。二五 是と等しく娼婦ラハブも、使等を承けて外の道より去らしめ、行によりて義とせられしに非ずや。二六 蓋靈なき肉體の死せるが如く、行なき信仰も亦死せるなり。

第三項 濫に人を教へんとする事。及び眞偽の知識。

第三章 我兄弟等よ、多人數教師と成る事勿れ、我等が一層嚴

しき審判を受くるは汝等の知る所にして、二我等は皆多くの事に就きて愆つものなればなり。人若言によりて愆つ事なくは是完全なる人にして、亦其全身を銜にて制むるを得べし。三夫馬を従へんとして、銜を其口に施せば、我等は其全身を馭す。四又船を看よ、假令其船大にして強き風に襲わるるも、最小き舵によりて操る者の欲する所に向けらる、五斯の如く舌も小き局部ながら、其誇る所は大いなり。如何ばかりの小き火が、如何ばかりの大なる林を焼くかを看よや。六舌も亦火なり、不義の世界なり。舌は我等が五體の中に備はりて全身を穢し、地獄の火を以て燃され、我等が一生の車輪を焼く。七蓋一切の獸、鳥爬蟲、海に在る種族は制せられ、又實に人性によりて制せられたり。八然れども舌は一人も之を制する事能はず、定まりなき惡にして死毒に充てり。九我等は舌を以て父にて在す神を祝し奉り、又之を以て神に象りて造られたる人を詛ひ、一〇祝福と詛と同じ口より出づ。我兄弟等よ、是然あるべきに非ず、二言同じ穴より水の甘きものと苦きものとを流す泉あらんや。三我兄弟等よ、如何ぞ無花果が葡萄を生じ、葡萄が無花果を生ずるを得んや。斯の如く塩水の泉も亦淡水を出すこと能はず。三汝等の中に智識ありて敏捷なる者ありや、其人は宜しく善き生活により、知識に出づる温和を以て行を示すべし。一四然れど汝等若苦き妬を懷きて争ふ心あらば誇る事勿れ、眞理に反して僞る事勿れ。一五是斯る知識は天より降れるものに非ずして地

に属するもの、肉慾より出づるもの、惡魔より來るものなればなり。一六蓋妬と争とある處には、亂と一切の惡業とあり。一七上よりの知識は第一に操、次に穩便温和にして勸を容れ易く、善に與し、矜恤と好果とに満ち、是非せず、表裏なきものなり。一八義の果は平和を為せる人々に於て、平和の中に撒かるるなり。

第四項 惡慾及び種々の缺點に對する意見。

第四章 汝等の中に於る軍と争とは何處よりか來れる、汝等が五體の中に戰へる其慾より非ずや。二汝等が貪りて得ず、殺し妬みて取る事能はず、争ひ戰ひて得る事なきは願はざるが故なり。三願ひて受けざるは、慾の為に費さんとして惡く願ふが故なり。四姦淫者よ、此世に對する愛情は神の仇となるを知らずや、然れば誰にもあれ、此世の友たらんとする人は皆神の仇となる。五汝等聖書の云へる事を徒なりと思ふか、神は汝等に宿らせ給ひし靈を妬むまでに望み給ふ、六尚大いなる恩寵を賜へばこそ、神は傲慢なる者に逆らひ、謙遜なる者に恩寵を賜ふとは云へるなれ。七此故に汝等神に歸服して惡魔に逆らへ、然らば惡魔は汝等より退くべし。八神に近づき奉れ、然らば神は汝等に近づき給はん。罪人よ、手を潔めよ、二心の者よ、心を清らかにせよ。九痛悔して歎き且泣け、汝等の笑は歎となり、汝等の喜は悲と成れ、一〇主の御前に謙れ、然らば主汝等を高め給はん。二兄弟等よ、相譏る事勿れ、兄弟を譏る者或は

兄弟を是非するものは、律法を譏り律法を是非する者なり。若し律法を是非せば、是律法の履行者に非ずして、其審判者たるなり。二 抑救ひ得べく亡ぼし得べき立法者審判者は唯一にて在らず、三 然るに汝誰なれば近き者をば是非するぞ。然て今、我等今日明日何某の町に往き、一年の間其處に留り、商売して利を得んと言ふ者よ、四 汝等は明日何事のあるべきかを知らざるに非ずや。五 蓋汝等の生命は何ぞや、暫く見ゆる霧にして、終には消失するものなり。汝等宜しく之に代へて、我等若し主の思召ならば又は生くるならば、此彼を為さんと言ふべし。一六 然るに汝等は今驕りて自ら誇れり、斯の如き誇は總て惡事なり。一七 故に人、善の行ふべきを知りて之を行はざれば罪と成るなり。

第五項 種々の勧告。

第五章 一 偕も富める人々よ、汝等が身に到來すべき禍の為に叫び歎け。二 汝等の富は腐敗し、汝等の衣服は蠹まれ、三 汝等の金銀は錆びたり。斯て其錆は汝等に證據と成て、火の如くに汝等の肉を食まん、汝等は末の日に對して怒を貯へたるなり。四 看よ、汝等が欺きて、汝等の土地を刈取りし作人に與へざりし賃金は叫ぶ、彼等の叫は萬軍の主の耳に入れり。五 汝等は地上に在りて歡樂し、身を放蕩に委ね、殺害の日に當りても心を満足せしめ、六 義人を罪に定めて之を殺ししも、彼は汝等に抵抗

せざりき。七 然れば兄弟等よ、主の降臨まで忍耐せよ、看よや農夫が地の尊き果を待ちて、春秋の雨を受くるまで忍耐するを。八 然れば汝等も忍耐して心を堅うせよ、蓋主の降臨は近きに在り。九 兄弟等よ、汝等審判せられざらん為に、相怒む事勿れ、看よ審判者は門前に立ち給ふ。一〇 兄弟等よ、汝等主の御名によりて語りし預言者等を以て、苦痛と忍耐との模範とせよ。一一 我等が忍耐したる人々を福なりとするを思へ、汝等曾てヨブの忍耐を聞き、又終に主の為に給ひし事を見たり。即ち主は慈悲深く在りて、憫を垂れ給ふ者なり。一二 我兄弟等よ、汝等第一に、或は天、或は地、或は他の何物を以ても誓ふ事勿れ、唯然りは然り、否は否と云へ、之審判に罹らざらん為なり。一三 汝等の中に憂ふる者あらんか、其人は祈るべきなり。喜ぶ者あらんか、其人は聖詩を謳ふべきなり。一四 汝等の中に病める者あらんか、其人は教會の長老等を喚ぶべく、彼等は主の御名によりて之に注油し、之が上に祈るべし。一五 斯て信仰の祈は病者を救ひ、主之を引立て給ひ、若罪あらば赦さるべきなり。一六 然れば互ひに己が罪を告白して、互の為に祈れ、是汝等の醫されん為なり。義人の篤き祈は大いなる効力あり。一七 エリアは我等と同様の人なりしも、雨の地上に降らざらん事を切に祈りしかば、降らざる事三年六箇月なりき。一八 斯て再び祈りしかば、天は雨を與へ地は果を與へたりき。一九 我兄弟等よ、若汝等の中に眞理を過てる者あり、人ありて之を立歸らしめんか、二〇 罪人を

其道の迷より立歸らしめたる者は、其魂を死より救ひ、多くの
罪を覆ふべしと識るべきなり。